

ハ之ヲ許サス

以上ハ則チ國家ノ法律ヲ以テ隨意規定スヘキ條項ナリ

一凡一國ニ許シタル報酬アル特權特許及特免ハ之ト

同種又ハ同價ノ報酬ヲ得ルニ非サレハ他ノ締盟國

ニ許サルコト

一我締盟各國カ最惠國條款ニ因リ他ノ各國ニ與フル
特權ハ我モ亦タ同シク之ニ均霑スルコト

附錄一 日 墨 締 約 一 件

一 明治十五年十月十三日 高平臨時代理公使ヨリ
井上外務卿宛

日墨締約二關スル件

附屬書一 墨西哥公使ロメロヨリ高平代理公使宛書翰

二 墨西哥國政府ヨリ在米ロメロ公使ヘ宛テタ
ル書翰

三 高平代理公使ヨリ墨國公使宛書翰
附記 千六百年代墨西哥ト日本トノ修好通商ニ關
スル略史

十一月二十一日到
附屬書一

第四十二號
去月廿一日下官儀國務省ニ於テ當府在留墨西哥國公使ニ邂

逅致候節慶長年中伊達政宗羅馬國ヘ使節派遣ノ節其一行墨
西哥國ヲ經過致候事ヨリ當時我國ト同國トノ交際ニ付該公
使ト談話致候趣有之候處其序同公使ハ前統領「グラント」
氏ヨリ曾テ談話ノ趣有之我國ト結約通交ノ儀ニ付同國政府

ヘ申立置候趣有之旨下官ヘ内話有之候處其後同公使ヨリ別
紙一號ノ書面差越シ二號及三號ノ通右公使ノ申立ニ對スル
墨西哥政府ノ回答書并昔年我國ト同國トノ交際ニ關スル記

事一卷送致有之候ニ付來意ノ趣ハ早便閣下マテ上申可致旨
別紙四號ノ通同公使ヘ回答致候間左様御了承有之度候然

ニ右交際記事ノ儀ハ西班牙語ヲ以テ記載有之候ニ付五號ノ
通英語ニ反譯爲致候間御一覽有之度此段得貴意候也

明治十五年十月十三日

臨時代理公使 高 平 小 五 郎
外務卿 井 上 馨 殿

(別紙) 壱號

墨西哥公使ロメロヨリ高平代理公使宛書翰

謹啓陳者本月二十一日木曜日國務省ニ於テ御面晤之儀ニ付
千八百七十九年墨是哥府ニテ西班牙語ヲ以テ刊行相成候
「ヒストリカル、アツコーント、オフゼ、ポリチカル、エ
ンド、コンメルシアル、インテコルールス、ビツウエー
ン、メキシコ、エンド、シャパン、オン、ゼ、セブンテー
ンス、センチユリー」(第十七世紀中墨是哥及日本間交際通

以上ハ則チ對等條約締結ノ爲ニ要スル要件ナリ
斯ノ如キハ則チ本員等カ條約改正ニ對スル冀望ナリトス
條約改正ノ事ハ 天皇大權ノ存スル處然レトモ本員等ハ
之ニ對スル衆議院ノ意向ヲ表白スルノ本分アリト信シ茲
ニ上奏策ヲ提出シテ本院ノ賛成ヲ要ムル所以ナリ

以上ハ則チ對等條約締結ノ爲ニ要スル要件ナリ
斯ノ如キハ則チ本員等カ條約改正ニ對スル冀望ナリトス
條約改正ノ事ハ 天皇大權ノ存スル處然レトモ本員等ハ
之ニ對スル衆議院ノ意向ヲ表白スルノ本分アリト信シ茲
ニ上奏策ヲ提出シテ本院ノ賛成ヲ要ムル所以ナリ

(商略史) ト題スル小冊子一部致進呈候尤モ英語譯文添付シ能ワサルハ甚タ遺憾ノ事ニ有之候該小冊子中ニハ千六百十

二年中墨是哥領臺ヨリ日本へ使節ヲ派遣セシ事又タ日本政府ハ墨是哥ヲ經テ馬德里及ヒ羅馬ニ使節ヲ發シ右使節一行

ハ「アカバルコ」ニ上陸夫ヨリ墨是哥府ヲ經過シテ西班牙ニ向ケ「ウエラ、クルース」ヲ解纏致サレタルコトヲ記載

有之候先達而「ゼネラール、グランント」氏ハ日本ヨリ領收致サレ候書翰ヲ拙者ヘ示サレ墨是哥ト日本ノ兩國間ニ通商ノ道ヲ開キ通商條約ヲ以テ其貿易ヲ保護スルコトノ便利ナル旨談話有之候ニ付右ノ趣墨是哥政府ヘ申立候處本年五月四日付

ヲ以テ同府ヨリ回答有之候ニ付右回答書寫ハ既ニ「ゼネラール、グランント」氏ヘ致送達候又先日御面晤之趣ニ依リ右往復書英譯文御心得ノ爲メ貴下へ差進申候 敬具

千八百八十二年九月廿八日

華盛頓府墨是哥公使館ニテ

エ・ム・ロ・メ・ロ

日本國 临时代理公使 高平小五郎 貴下

附屬書II

華盛頓在留
特命全權公使

國務省外務公信局ニ於テ

マ・リ・カ・ル

(別紙) 四號
高平代理公使ヨリ在米墨國公使宛書翰

昨日付貴翰并ニ別紙共致洛手御懇切ノ段深謝ソ至ニ候貴我兩政府交際上ノ史冊ハ拙者方ニテ反譯可致且貴政府ヨリ貴下宛ノ書翰ハ緊要ノモノニ付井セテ我外務卿ヘ可致送達候

敬具

千八百八十二年九月廿九日

華盛頓日本公使館

高 平 小 五 郎

墨是哥國
特命全權公使 マチアス、ロメロ閣下

附記

千六百年代墨是哥ト日本トノ修好通商ニ關スル略史 第一篇

抑モ墨是哥入ト日本人民トノ交際ハ其由來實ニ久シク遙ニ世人思想ノ外ニ出ツ今其交際ノ此ノ如ク舊古ナルヲ知ルト雖モ之ヲ證明センニハ非常ノ勞力ヲ要スルカ故ニ予ハ唯千六百年代ノ始メ墨是哥太守「ドン、ルイス、デ、ウエラスコ」第二世カ其交際ノ道ヲ開タル事即チ近代ノ景況ニ就テ

當時ノ一大難題ハ歸航ノ路ヲ求ルニアリタルカ多年西班牙ノ航海者ハ此ニ注意ヲ怠ラスシテ即チ墨是哥太守「ドン、ルイス、デ、ウエラスコ」第一世カ「ミギュエル、ドン、ツ、デ、ガスピ」ヲ船長トシテ呂宋島ニ送リシ艦隊ノ水案内者「プロヅル、アンドレス、デ、ウルダネタ」ナルモノハ既ニ此難題ヲ解キ歸航ノ新路ヲ開キタリ而シテ右ノ航海者カ日本海岸ヲ望ミシハ曩ニ偶然發見ノ時ヲ距ル二十三年ノ後ニアリトス但シ彼等ノ目的ハ新西班牙へ歸航スル便

附屬書I

(別紙) 二號

墨是哥國政府ヨリ在米ロメロ公使ヘ宛テタル書翰

日本國ト通商條約取結ノ儀ニ付貴下「ゼネラール、グランント」氏ト御面談之趣並ニ右「グランント」氏破産ノ事ニ關スル風説等御申越シノ去月十五日付第百廿八號書翰致落手候陳者第一點ノ儀ニ就テハ墨是哥政府ハ日本ト通商交際ノ道ヲ相開キ度致希望候ニ付日本公使ニ於テ其政府ヨリ必要ナル指令相受候節ハ何時ニテモ華盛頓府在留我公使ヘ右同様ノ指令可致候第二點ナル「ゼネラール、グランント」氏ヨリ貴下へ説明相成候件ニ關スル書翰ノ寫ハ刊行布告ノ爲メ既ニ當政府ノ官報新聞記者へ致送付候 敬具

墨時哥千八百八十二年五月四日

千八百八十二年九月廿八日

華盛頓府墨是哥公使館ニテ

エ・ム・ロ・メ・ロ

日本國 临时代理公使 高平小五郎 貴下

附屬書II

華盛頓在留
特命全權公使

國務省外務公信局ニ於テ

マ・リ・カ・ル

路ヲ發見スルニ在ルヲ以テ北緯四十三度迄北方ニ向テ航行シタルモ日本海岸ニハ上陸セサリシナリ爾來墨是哥歷代ノ太守ハ常ニ此地方へ航海者ヲ遣ハシ往來セリ仍テ古來未開ノ日本國ニ於テ航海學ノ率先者タル名譽ヲ獲タルハ亦宜ヘナリ

既ニ呂宋島ト互市ノ道開ケヨリ新西牙ト該島トノ交通ハ頻繁ヲ加ヘ隨テ墨是哥ハ西班牙ノ殖民地ヲ諸方ニ設クルコト恰モ始メ「サンドミンゴ」竝ニ「キニバ」ノ二地カ墨是哥ニ繁殖民セシカ如シ斯ク呂宋諸島ハ絶ヘス墨是哥ヨリノ移住民ヲ以テ繁殖シ而シテ當時「アカバルコ」港ト「マニラ」港ノ間ニ往來スル船舶ハ夥多ナリキ此事業ハ千六百年代ノ央ニ至リ衰退シテ終ニ一二艘トハナレリ

千六百十年中右呂宋諸島ニ通商スル船一隻暴風ニ遭ヒ日本海岸ニ漂着シ其破損尤モ甚シ然ルニ當時日本ノ國守ハ速ニ其船楫ヲ修メシタ且ツ薪糧ヲ給シタルヲ以テ無事ニ歸國スルコトヲ得タリ實ニ若シ此ノ如キ仁恵ノ待遇ナカリセハ漂流人ハ墨是哥ニ歸ルノ機ヲ失ヒ終ニ空シク日本國ニ滯留セサルコトヲ得サルヘシ如斯キ寛仁大度ノ處置ハ當時所謂文明各國ニ於テスラ夢想タモ及ハサル所ニシテ即チ彼等ハ皆

革ニ依テ紛失セシモノカ或ハ數千括モ推積スル書類中ニ埋没シテ未タ見出シ克ハサルカ余曾テ日本ニ外蕃通書ト題スル大部ノ書アリテ其中ニ新西班牙トノ交際ニ關スル事跡ノミ載セタルモノ一卷アリト聞ケリ其卷中千六百十二年七月ヲ以テ墨是哥太守ニ送リタル一通ノ書翰アリ此書翰ニハ兩國ノ間ニ商ヲ許スヘキモ耶蘇教ハ之ヲ禁スル旨ヲ載セタリ

余カ此事ヲ知リタルハ先年（明治七年ノ末）墨是哥太守ヨリ金星測量官ヲ横濱ニ派遣セシ時ナリシカ當時該官ノ歸期既ニ迫リタルヲ以テ其滯在中ニ右ノ書類ヲ求メ得ルニ縁ナカリシ乍去幸ニ日耳曼帝國ニ駐劄スル日本公使青木周藏君ハ余カ右書翰ノ寫ヲ求ムル情願ヲ領承セラレタレハ爰ニ先ツ其厚情ヲ謝スルナリ且又余カ此略史中ニ載スル事項ヲ知リ得タルハ當時巴里駐劄英國大使附ノ書記官ニシテ嘗テ久ク日本ニ在テ代理公使タリシ「フランシス、オットウエル、アダムス」氏ノ厚意ニ由ルコトナレハ實ニ鳴謝ニ堪ヘ

サルナリ氏ハ自ラ日本ノ歴史ヲ著ハシ其高論卓識ト記事ノ斬新ナルトハ人咸ナ稱賛セサルナシ、サテ「アダムス」氏ハ嚮ニ書ヲ江戸ニ在ル學友「エルネスト、サトウ」氏ニ送

ナ其海岸ノ權利ヲ嚴ニ主張シ他國人ヲ容レサルナリ、サテ此奇異ナル日本ノ處置ヲ新西班牙ノ代官「ドン、ルイス、デ、ウエラスコ」第二世カ聞知スルヤ否ヤ大ニ感喜シ乃チ使節ヲ日本ニ遣シ漂民救助ノコトヲ其政府ニ謝セシメタリ此使節ハ數種ノ贈物ヲ齎シ千六百十二年ノ夏日本ニ到着セリ其贈物中ニ掛時計一個アリ是レ日本人ノ物メテ見ル所ニシテ爾來日本人バ此器ヲ模造シ遂ニ精巧ヲ得ルニ至レリト此使節ハ數種ノ贈物ヲ齎シ千六百十二年ノ夏日本ニ到着セリ其贈物中ニ掛時計一個アリ是レ日本人ノ物メテ見ル所ニシテ爾來日本人バ此器ヲ模造シ遂ニ精巧ヲ得ルニ至レリト此使節ハ數種ノ贈物ヲ齎シ千六百十二年ノ夏日本ニ到着セリ其贈物中ニ掛時計一個アリ是レ日本人ノ物メテ見ル所ニシテ爾來日本人バ此器ヲ模造シ遂ニ精巧ヲ得ルニ至レリト此使節ハ數種ノ贈物ヲ齎シ千六百十二年ノ夏日本ニ到着セリ其贈物中ニ掛時計一個アリ是レ日本人ノ物メテ見ル所ニシテ爾來日本人バ此器ヲ模造シ遂ニ精巧ヲ得ルニ至レリト

余輩ハ此使節ノ事跡ヲ詳細知ラント欲シ頗ル其考索ニ力ヲ盡シタレトモ得ル所ノ結果甚タ僅少ニシテ實ニ我殖民地ノ史官某ノ記事ニ據テ聊カ其概要ヲ知ルノ外更ニ得ル所ナシ然レトモ余輩ハ仍ホ茲ニ失望セスシテ其探求ヲ懈ラサルヘシ但其既ニ收錄セシ記事ヲ乃チ先ツ此書ニ揭示スルモノナリ尤モ其謬誤ナキヲ保シ難シト雖モ蓋シ大差アラサルヘシト信ス

我國政府ノ國書館中ニ於テモ未タ日本ト我國ノ交際ニ關シタル書類ヲ見當ラス尤モ該館ニハ「ドン、ルイス、デ、ウエラスコ」第二世ノ時代ニ關スル他ノ書類ハ多ク存在ストモ此太守ノ通信書ニ至テハ然ラス是レ蓋シ該館數回ノ變

「サトウ」氏カ江戸ヨリ送リタル書中ニ左ノ一章アリ「新井白石氏ノ著書采覽異言ニ曰ク慶長十五年（千六百十年新

西班牙ノ商船一隻日本ノ東海岸ニ漂着セシニ其船體大ニ破損セリ國守ハ乃チ之カ舟楫ヲ修メシメ薪糧ヲ給與シテ歸國ヲ許セリ其後慶長十七年（千六百十二年）ノ夏同國ヨリ使節ヲ送リテ前件ノ謝意ヲ表セリ此使節ノ齎ラシタル贈物中ニシテ第十二代ノ太守ナル「ブロゾル、ガルシア、グエル

ヲ」ハ翌年二月二十二日ニ逝去セリ故ニ「オーデエンナ」州ノ管領「ドン、ベドロ、デ、オタロラ」ハ繼テ太守ト成リ同年十月二十八日迄政柄ヲ握リタルカ此ニ至リ「グアドルカサル」侯「ドン、デエゴ・フェルナンデス、デ、コルドワ」ニ其權ヲ譲レリ此太守ノ時代ニ於テ即チ彼ノ先年發遣セシ使節カ日本ヲ去リシナリ

左ニ「ファザル、カウオ」ノ著書第六卷第十四章ニ記シタル事ヲ抄出ゼン

「是時ニ當リ二ヶ年以前「ウエラスコ」カ兩國ノ間ニ互市ヲ開ク爲メ日本ニ派遣セシ使節ハ正ニ其命ヲ奉行スルノ最中ナリ乃チ其使命ヲ全フセンカ爲メ繁華ノ都會ナル江戸ニ赴キ（將軍徳川二代目）ニ拜謁シテ啜手ノ禮ヲ行ヘリ隨テ日本諸港灣ヲ測量スルコトモ差許サレ以テ墨是哥船舶ノタメ碇泊ノ便宜ヲ謀レリ」

「既ニシテ家康ハ此使節ノ心術果シテ如何ナルヲ疑ヒ其地理學ノ顧問タル和蘭船ノ船長英國人某ニ問フテ曰ク墨是哥使節ノ如ク他國へ派遣ノコトハ歐洲各國ノ慣習ナルヤ答テ曰ク決シテ然ラス西班牙人ハ世界一統ノ大望アルニ付其目的ヲ以テ先ツ耶蘇ノ門徒ヲ諸方ニ送リ宗教ヲ名トシテ人民

ヲ煽動シ其君主ニ叛カシメント欲スルモノナレハ殿下宜ク彼カ舉動ニ注意アルヘシ彼レ此術ヲ用テ既ニ亞細亞及ヒ亞米利加洲ニ於テ廣大ノ土地ヲ占領セリ因テ和蘭英吉利及ヒ日耳曼人ノ如キハ嚮ニ之ヲ洞知シ和蘭國ハ遂ニ彼カ禦絆ヲ脱シ他ノ二國ハ彼ニ兵ヲ交ヘタリト」

「英人ノ此答ハ實ニ墨是哥使節カ其使命ヲ遂クルノ妨碍ト成リ且ツ耶蘇教徒追放原因トハナレリ」

サテ、以上「ファザル、カウオ」氏ノ記事ハ大率不信スヘキモ其事跡ヲ説明スルニ於テ稍ヤ適切ナラサル所アリ今之ヲ補正セんカ爲メ左ニ聊カ記述セント欲ス

サテ第一ニ右歴史家ハ千六百十二年ノ末ニ適當スル事件トシテ彼ノ使節ノ事ヲ説キ即チ該使節ハ二ヶ年前（千六百十一年）ニ「ウエラスコ」太守カ派遣セリト述ヘタリ然ルニ氏ハ既ニ千六百十一年一月一日「アルカルデ」（判事）二十名任命ノ事ヲ記シタル後チ此使節ハ「ウエラスコ」カ其晩年ニ送リタルナリト明記セリ因是觀之此ノ年月ハ正當ニシテ前ノ年月ハ非ナルコトヲ覺フ即チ千六百十二年ノ夏該使節ハ日本ニ來着セリトノコトハ日本ノ書類ニ由テ明瞭ナレハ若シ前ノ年月ヲ正當トセハ使節カ日本到着迄ニ殆ント二

ケ年ヲ費ヤシタリト見做ササルヲ得ス是レ蓋シ誤リナルヘシ

又其書第十四章ニ於テモ第十二章ニ於ル如ク此使節補任ノ事ヲ記セスシテ唯タ或ル人ニ委任セリト云ヘリ而シテ采覽

異言ニモ此繫要ナル事件即チ使節ノ人名ヲ載セス予カ纏ニ知リ得タル所ハ彼ノ有名ナル記者「ドン、マニユエル、リヴエラ」氏カ所著ノ「墨是哥太守」ト題スル大部ノ書ニ就テ左ノ件ヲ發見シタルノミ即チ其初巻第九十六枚ニ曰ク「ウエラスコ」太守ハ貿易ヲ保護スルコトニ注意シ是カ爲メ日本へ使節ヲ送レリ此使節ノ一行中ニ信者ナル「アエリペ、デ、ジエーザス」氏モ加ハレリト

予墨是哥使節ノ名ヲ確知セント欲シテ遂ニ右「リウエラ」氏カ說ノ實否ヲ吟味セシカ千六百十一年中日本ニ向テ新西班牙ヲ出發シタル使節カ千五百九十七年長崎ニ於テ「フランシスカン」徒ヲ磔刑ニ處シタル件ニ關シ更ニ見出シ能ハサルナリ堵テ又「ファザル、カウオ」カ墨是哥使節ハ江戸ニ赴キ其使命ヲ全フシタリト語ヘ蓋シ日本ノ大名即チ諸侯（恐ラク奥州ノ大名ナラン）ノ一人へ始テ謁見セシ事ヲ指スモノナルヘシ此奥州侯ハ後チ示スカ如ク千六百十五

思ラク外國人カ日本ヲ奪ハシ爲メ來航スルコソ奇怪ナリト且先年秀吉在世ノ時ニ於テ外國宣教師カ「フランシスカン」徒竝ニ「ドミニカン」徒ニ對シ陰險ナル謫謀ヲ行ヒシコトモ家康親シク目撃シ遂ニ秀吉ヲ輔ケテ天皇ニ奏シ禁退ノ策ヲ施シタリキ既ニシテ秀賴及ヒ其夫人（家康ノ息女）ハ洋教ニ改宗シ耶蘇門徒ニ心服スルカ故ニ家康ハ大ニ忌懼シ非常ノ決斷ヲ以テ此危難ヲ掃ハント欲セリ

家康カ羅馬教ノ信者ヲ逐放セシ原因タル彼ノ船長某ノ事ニ付今マ茲ニ二説アリテ或ル人ハ此船長ヲ以テ西班牙人ナリト爲シ又「ファザル、カウオ」ハ予カ前ニ引用セシ如ク之ヲ英國人ナリト爲セリ此説蓋シ是ニシテ前説ハ非ナラン何トナレハ當時西班牙人ハ如何ニ傲慢ノ極度ニ達シタレハトテ躬カラ自國ノ損害タルコトヲ顧ミスシテ誇リ顔ニ其强大ヲ話スカ如キ無智ノ徒ハ恐ラク一人モ無カルヘシ實ニ當時「ブロデスタンント」宗徒ノ英國人カ羅馬教徒ノ事ヲ惡評シ險害ナリト讒毀スルハ蓋シ怪シムニ足ラサルナリ而シテ西班牙人ノ如キハ「ゼズイット」宗ノ開祖「ロヨラ」師ヲ尊崇シテ國ノ榮譽トナシ其教會ニ入ル諸人ヲ邦家ノ公務ニ盡力スルモノト平生思フカ故ニ日本ニ於テ自國ノ人民カ施シク

ル事業ヲ惡評シ自國ノ君主ヲ非難スルコトハ蓋シ有間敷キ事ナリトス且此時和蘭船ノ船長ニシテ家康ノ數學地理學ノ教師タル英人「ウイリヤム、アダムス」カ其中間ニ立チ以テ和蘭人ヲシテ非常ノ利益ヲ得セシヌタル事ハ我史官ノ説ヲ鞏固ニスルモノナリ
「ファザル、カウオ」ハ羅馬教信者カ彼ノ時放逐セラレタリト云ヘリ然レトモ是レ後年ノ事ニシテ且ツ使節ノ談判モ決シテ結果ナキニアラサルナリ而シテ斯ク日本ヨリ得タル款情ヲ墨是哥太守ハ有用ノ途ニ實施セスシテ止ミス是レ彼レ自己ノ失策ニシテ日本人ノ過チニハ非サルナリ日本ノ商人數輩ハ右使節ニ伴行シテ新西班牙ニ臻リ其翌年（千六百十三年）日本ニ歸レリ此事ハ新井白石氏カ著書中ニ記載セリ即チ

「商人等其翌年歸朝シ彼國人口ノ夥多ニシテ物產ニ富メルコトヲ物語レリ亦夕彼地滯在中ニ其人民ヨリ烹遇ヲ受ケ兩國ハ甚々遠隔シ航海モ困難ナリ卿等ノ歸國スルニハ無難ナルヘシ杯嘶サレタル由」

右ノ語意ヲ察スルニ其待遇ハ頗ル慇懃ナリシモ未タ十分ナラサル所アルヲ見ルヘシ當時我國ノ歴史家カ誰一人トシテ

日本商賈ノ墨是哥ニ來リタルコトヲ明記スル者アラサリシハ蓋シ右ノ譯柄ニ因ルナラン此時若シ立派ナル待遇アリタランニハ必ス其事ノ記載アル可キ筈ナリ唯右商人等ハ始テ渡來ノ日本人ナリトテ珍ランク思ハレタルニ過キサルヘン又右ニ反シテ「ファザル、カウオ」カ同書第六卷第十六章（千六百十五年）ニ述ル所ヲ看ルニ曰ク「凡ソ此時ニ於テ（年月未詳）日本奥州侯伊達政宗ハ墨是哥及ヒ西班牙ヘ使節ヲ派遣シテ五市ノ事ヲ商議セシメタリト雖モ成功ヲ得ス如何トナレハ既ニ此時ニ當リ其近傍ノ諸侯ハ頻ニ耶蘇宗徒ヲ放逐スルノ勢ナレハナリ而シテ右伊達家モ遂ニ亦其轍ヲ踏ムニ至レリ」

實ニ日本國北方ノ領主タル奥州侯ハ羅馬ニ使節ヲ送レリ此使節ハ其航路ヲ喜望峯ニ取ラスシテ大平海ヲ涉リ墨是哥ヲ經テ羅馬ニ赴キタルナリ使節ノ首長ハ「ファザル、ルイス・ソテロ」ニシテ其一行ハ千六百十五年十一月三日法皇ニ謁見セリト云フ是レ此使節カ同年ノ初メ或ハ前年ノ末ニ墨是哥ニ在リタルヲ以テ知ルヘシ諸日本ニ於テ耶蘇教信者ヲ放逐シタルハ千六百十五年ニ始マリ正ニ家康カ秀賴ニ對シテ浪華ノ役ヲ起セシ時ニ當レリ秀賴ハ不幸ニシテ大阪城

附錄 日墨締約一件

是哥太守ハ兩國間五市ノ事ヲ商議スルタメ日本ヨリ派遣シタル使節ヲ接待セリ此時別ニ一行ノ使節ハ同シ目的ニテ西班牙ニ赴キタリト」右ノ次第ナレハ余ハ唯茲ニ聊説明ヲ爲シ以テ後世我國ノ歴史ヲ編纂シ斯ノ散逸シタル材料ヲ一冊子ニ集成セント欲スル者ヲ多少裨益スルノミ

偕「ファザル、ルイス、ソテロ」ハ日本使節ノ首長タリンニ非ス其實只タ此使節ノ一員ニ加ハリタルナリ即チ彼ハ日本帝ヨリ派遣セシ一員ニシテ他ノ使節即チ支倉六右衛門ト云フ者ハ奥州ノ一諸侯ナル伊達正宗ヨリ送ルモノナリ勿論「プロヅル、ルイス、ソテロ」ハ右使節派出ノ事ヲ發起シタル者ニシテ且其先導者タリシコト疑ヒナシ抑モ此八ハ西班牙國ノ「サウキラ」州ニ生レ「フランシスカン」宗ナリ千五百九十九年ノ頃呂宋島及ヒ日本ヘ向ケ其宗徒ト俱ニ出发セシカ墨是哥ノ「アカバルコ」港ヨリ乗船スル目的ニテ先ツ墨是哥ニ到レリ然ルニ新西班牙ノ都府ニ着スルヤ同宗ノ僧徒ハ頻ニ其逗留ヲ望ミタレハ暫時足ヲ止ヌテ之ニ神學ヲ教フルコトト成レリ然レトモ「ソテロ」ハ是非亞細亞ニ赴カント決心ナレハ其旨ヲ出願シ終ニ「マニラ」ヘ航行スヘキ許可ヲ鎮臺「ド、フランシスコ、デ、ツニカ」ヨリ

的ヲ達シ乃チ奥州公ハ耶蘇教ニ改宗シ又其臣下一般ニ命シテ洗禮ヲ行ハシメタリ
此時和蘭人ハ自國獨立ノ爲ニ戰爭シ到ル處西班牙人ト對敵セサルナク頻ニ印度支那海ノ邊ニ往來シ事ヲ企ツルノ最中ニシテ「ナスサウ」公「マウリス」ハ乃チ使節ヲ日本ニ送リ同盟ノ約ヲ結ンテ「マニラ」州及ヒ葡萄牙ノ殖民地（當時ハ西班牙ニ屬ス）ニ對シ兵ヲ用ユルノ本陣ヲ日本ニ設ケンコトヲ談判セシメタリ是時「ソテロ」ハ右使節ノ陰謀ヲ破ルコト能ハサリシカト仍ホ能ク日本帝ニ奏シテ修好使節ヲ西班牙國ニ送ルヘキ勅許ヲ得タリ而シテ自ラ其使節ニ加ハリ竟ニ千六百十二年ヲ以テ解纏セリ然ルニ其船破損セシカ故ニ復タ足ヲ留メテ新造船ノ成ルヲ待チ居レリ

此際ニ於テ「ソテロ」氏ハ頻ニ奥州侯ニ説キ勸メ西班牙及ヒ羅馬ニ使節ヲ送ルコトニ決シ其近衛弓隊長ナル支倉六右衛門ヲ選抜シテ此役ヲ命スルニ至レリ而シテ氏ハ六右衛門及ヒ其家族ノ外ニ「フランシスカン」徒二人竝ニ日本人百五十名ヲ同伴シ乃チ千六百十三年十月廿八日ニ解纏シ太平海ヲ航シテ翌年一月廿五日墨是哥國「アカバルコ」ニ上陸セリト云フ」以上陳ル所ハ「エスピボン、アマト」氏著

得タリ此時呂宋島ヲ管轄セシハ「サンチアゴ」男爵「ド、フランシスコ、テロ」ニシテ同シク「サウキラ」州出產ノ人ナレハ素ヨリ「ソテロ」ト知己ナルヲ以テ相得テ甚々親睦遂ニ寺院ヲ建築スルヲ許セリ而シテ耶蘇教ニ改宗シタル日本ノ航海者ハ此建築ニ寄附セシモノ往々アリト云フ

既ニシテ鎮臺「テロ」ハ死去シ其後主ナル「ド、ベドロ、デ、アキユナ」ハ充分ノ保護ヲ與ヘサルニ因ルカ或ハ先主ノ死後諸事面白カラサルニ因ルカ「ソテロ」ハ竟ニ日本ヘ赴カント決心セリ當時太閤秀吉薨去シテ宗教ノ禁漸ク弛ムノ機ニ乘スルナリ

「ソテロ」ノ入ト爲ナリ穎敏才辯ナレハ早ク日本語ニ通シ且ツ其職業ヲ修ムルヲ以テ大ニ日本人民ニ愛敬セラレ其治療ノ名聲四方ニ達シ人咸ナ之ヲ稱讃シ感謝スル者亦甚タ多シ偶マ奥州公ノ愛妾病ニ罹リタルコトアリシニ「ソテロ」ノ療治ヲ以テ平治セシカハ伊達正宗ハ大ニ感服シ「ソテロ」ヲ寵愛スルコト至テ深ク遂ニ毎度ノ食膳ニ陪席ヲ許スノミナラス其國政ニモ參與セシムルニ至レリ「ソテロ」ハ此機ニ乘シテ耶蘇教ヲ弘メント盡力シ且ソ日本ニ流行スル切腹ノ事ヲ野蠻ノ惡習ナリト頻ニ主張シ百方論辯ノ末竟ニ其目

書ノ序文及ヒ第一篇乃至第十六篇中ニ記載シタル此使節ノ由來ノ大略ナリ尤モ余ハ其原本ヲ得サリシトハ雖幸ヒ「フアザル、アオビアス、ヘンドセル」氏ノ譯文アルヲ以テ資テ本書ノ引用ニ供スルコトヲ獲タリ
偕「アマト」カ此使節ノ「アカバルコ」ヘ入港ノ事、墨是哥ヘノ航海及ヒ同府ニ滯在ノ事、「ブエブラ」ヲ經テ「サン、ジュアン、デ、ウリュア」迄ノ航海及ヒ此使節カ西班牙ニ向テ解纏セシ模様ナトヲ如何ニ記述セシヤ請フ左ニ之ヲ示サン

或日「アカバルコ」港ニ美麗ナル大船一隻入港スルアリ國王ノ旗幟ヲ以テ纏節シ船中ニハ西班牙國王ヘ向ケ派遣セル日本使節ノ一行ヲ搭載ストノ報知ニ依リ該港ニ在ル司法官其他官吏ハ咸ナ特別ノ禮式ヲ以テ此使節ヲ迎ヘント決議セリ該船ヨリハ和親ノ相圖ヲ示シ祝砲ヲ發シ港内ヨリモ亦タ發砲ノ答禮ヲ終リ右ノ諸官員ハ此使節ヲ迎ヘテ且之ヲ「カラ、エル」マデ護送シ此時一群ノ弓手隊ヲ出シ太鼓、笛、喇叭等ノ樂器ヲ鳴奏セリ其迎接甚タ鄭重ニシテ旅館ノ供設最モ奢華ヲ極メタリ

チニ指令ヲ下シ使節一行ノ爲メ旅中ノ食物其外萬事ヲ配慮セシメ且遠洋危險ノ航海ニモ聊カ不便ヲ感セサル様取計フヘシト命センカハ鎮臺ニハ大勢ノ騎隊ヲ出シテ此使節ヲ墨是哥府ヘ護送セシメタリ

此使節カ將ニ大都府ナル墨是哥ニ到着セントスルニ際シ太守ハ其旅館トシテ護國寺ノ近傍ナル甚ダ壯麗ノ宮殿ヲ充用スヘキ旨命令セリ此旅館ニ於テ復タ最モ華美鄭重ノ待遇ヲ受ケ貴族紳士ヲ始メ判事僧官等ノ訪問ニ預カレリ且恰モ「レント」齋禮ノ佳辰ニ會シタルヲ以テ到ル處祭禮ノ儀式行列ヲ眺メ一入信仰ノ思ヲ増サシメ終ニ使節ノ從者七八人ハ護國寺ニ於テ公然洗禮ヲ受ケ教會長ノ誓證竝貴族ノ保護式ナトモ濟マセクリ因テ使節モ亦躬カラ洗禮ヲ受ケント迄決心シタレトモ教會長竝ニ「ゾテロ」氏ノ勸告ニ由リ此儀ハ西班牙到着ノ上マテ見合スコトトナレリ

サテ日本使節モ亦充分華美ヲ示サント欲シ墨是哥太守ニ謁見ノ前以テ其從者一同ヘ新衣ヲ給與セシメ而シテ途中ハ威儀ヲ正シ護衛ノ騎兵ハ光輝ヲ放テ肅然トシテ王宮ニ到レリ太守ハ禮ヲ盡シテ使節ヲ歡迎シ先ソ其旅行ノ模様ヲ談話ニ及ヒ使節ノ來着ヲ悅フノ旨陳述シ且自國ノ境内ヲ通過スル

コトヲ承允セリ但タ其歸路ハ西班牙國王ノ指圖通りヲ守ルコト然ルヘキ旨告ケタリ

使節ハ多人數ナル從者ヲ悉ク西班牙ヘ同行スルコト甚困難ナルニ付過半ヲ墨是哥ニ残サント決心シ唯一隊ノ騎兵ト諸役員ヲ隨ヘ其家族ト俱ニ耶蘇昇天日ヲ以テ「プロブラ」港ニ向ヒ出發セリ既ニ該地ノ長官「ドン、トリスタン、デ、アレルラナ」ニハ「ベンテコスト」（猶太守ノ祭名）ノ佳節ト日本使節ノ到着ヲ祝スル爲メニ牛鬪ノ遊戯ナトヲ催サント準備セリ而シテ使節ハ道中常ニ「フランシスカノ」宗ノ寺院ニ止宿シ丁寧ナル迎送ヲ受ケタリ是レ該港ニ在ル其管長ヨリ前以テ一僧ヲ發シ使節竝ニ其家族ヲ迎接スヘキ旨布達セシニ因ル

其「サン、ジュアン、デ、ウリュア」ニ到着スルヤ艦隊長鎮營司令官裁判官其他縉紳等ハ喇叭太鼓ヲ鳴奏シテ之ヲ達ヘ其旅館ナル僧院マテ導伴セリ

使節ハ鎮營ヲ一覽セリ是時祝砲連發ノ聲始終絶ヘサリキ既ニシテ一艘ノ大船ハ準備整頓シタルヲ以テ使節ハ家族ト俱ニ之ニ搭載シ遂ニ一千六百十四年六月十日該港ヲ出帆セリ「ゼネラール、ドン、アントニオ、デ、オグエンド」氏ハ

別ニ艦隊ヲ指揮シテ其護送ヲ爲シ七月廿三日「ハウアンナ」ニ臻リ十月五日終ニ西班牙國ニ到着シタリト

千八百七十五年四月

柏林府ニテ記ス

在華盛頓特命全權公使 寺島宗則殿

明治十五年十一月三十日

外務卿 井 上 謩

公第九十號

高平臨時代理公使ヨリノ第四十二號公信本月二十一日接手

候其府駐劄墨西哥國公使ヨリ昔時我國ト該國トノ關係ノ事

等談話ノ末更ニ我國ト條約ヲ締結シ兩國交通相開キ度旨申

立候ニ付同公使ト往復書柬竝ニ千六百年代日本墨西哥交際

略史ト題セル小冊譯文被相添縷々御申越致了承候

該國トハ昔年交通致候關係モ有之且又其地形太平洋ニ濱シ

北米合衆國ニ接近シ頗ル航海ノ便ヲ有シ貿易ノ道開ケ候ハ

バ將來雙方ノ利益不少ト致思考候然ルニ目下我國ト歐米諸

國トノ條約重脩ノ期ニ際シ專ラ談判中ニ候間何レ右重修完

三 條約期限ハ有期ニシテ且ツ何時タリトモ若干
二 裁判權ニ關シテハ相互的ニ在留國ノ法權ニ服
一 通商航海上ノ事項ニ關シ相互的ニ最惠國待遇
ヲ受ク

三 條約期限ハ有期ニシテ且ツ何時タリトモ若干
二 裁判權ニ關シテハ相互的ニ在留國ノ法權ニ服
一 通商航海上ノ事項ニ關シ相互的ニ最惠國待遇
ヲ受ク

月ノ豫告ヲ以テ解約シ得
五月十二日駐米陸奥公使赴任ノ際旨ヲ授ケテロメロ
公使ト折衝セシメ十一月ニ至リ殆水妥協ヲ得タリ

日墨締約條款ニ關スル閣議案

(前略) 前陳ノ如ク墨西哥政府ニ於テ其ノ人民ヲシテ我法權ニ服從セシムルニ付畢議ナキ上ハ別紙條約草案第四條ノ如ク嘗テ歐米國人ニ附與セサル所ノ我内地ニ於テ旅行、滯在及ヒ住居スルノ特權竝ニ諸營ニ從事スルノ特權ヲ附與スルモ敢テ差支ナシト思慮候ニ付之ヲ附與スル方可然ト存候斯ノ如キ特權ヲ墨西哥人民ニ附與候其實際同國人ニ於テ之ヲ利用スル者ハ殆ント皆無ナルヘクトハ存候得共今本大臣ノ此ノ特典ヲ附與セントスルハ從來帝國政府ト歐米諸國ト締結相成居候所謂最惠國條款ニ付キ其ノ效力如何ヲ議定スル機會ヲ得ントスルニ有之候元來右最惠國條款ニ掲記セル均露ノ事タル甲國ニ對シ無條件ノ特典ヲ與ヘタル場合ニハ乙國ヘモ亦無條件ニテ之ヲ與フヘキモ若シ其特典ヲ與ルヤ之カ原因タル所ノ條件アル場合ニ於テハ同一ナル條件無キ場合ニ於テハ之ヲ附與スヘカラストナスハ我政府ニ於テ至

四 明治三十一年十一月三十日 調印

日本國及墨西合衆國修交通商條約

別錄一 御批准案

二 外務省令并告示

三 陸奧公使宛大隈外務大臣書翰抄出

四 最惠國條款ノ解釋ニ關スルロエスレル氏意見

明治二十一年十一月三十日華盛頓ニ於テ調印(日、西・英文)

ニ永遠無窮ノ平和親睦アルヘシ

第二條

日本皇帝陛下及墨西哥合衆國大統領ハ兩國間竝ニ其臣民及人民間ノ修好通商ニ關シ永久堅固ノ基礎ヲ定メシコトヲ欲シ修好通商條約ヲ締結スルコトニ決シ日本皇帝陛下ハ亞米利加合衆國華盛頓府ニ駐劄スル日本皇帝陛下ノ特命全權公使從四位勳三等陸奧宗光ヲ其全權委員ニ命シ墨西哥合衆國大統領ハ亞米利加合衆國華盛頓府ニ駐劄スル墨西哥合衆國ノ特命全權公使「マチアス、ロメロ」ヲ其全權委員ニ命シ

タリ因テ雙方ノ全權委員ハ互ニ其委任狀ヲ示シ其正實適當ナルヲ確認シ左ノ條々ヲ合議決定セリ

第一 條

日本帝國ト墨西哥合衆國トノ間竝ニ兩國臣民及ヒ人民ノ間ノ自由アルヘシ兩締約國ノ一方ノ臣民若クハ人民ハ他ノ一方ノ領地及ヒ所屬地ニシテ最惠國ノ臣民若クハ人民ノ到リ得ヘキ各所各港ヘハ其船舶貨物ヲ以テ自由安全ニ到ルコト

當トスル所ノ意見ニ可有之且歐米諸國ノ間ニ行ハルル條約中最惠國條款ニ關スル解釋ハ之ト符合スル議ニ有之候然ルニ此點ニ就テハ從來條約國政府ニ於テハ我政府ト意見ヲ同フセサルカ如ク相見ヘ候得共未タ確然之ヲ決定スル場合アリタルコト無之候然ルニ今墨西哥國人民ニ向ツテ他國政府ニ附與セサル所ノ特權ヲ附與スル時ハ必スヤ右諸政府ハ前掲最惠國條款ニヨリ均露ノ取扱ヲ請求スルニ至ルヘク然ルトキハ我政府ハ最惠國條款ノ效力ニ關スル我政府ノ意見ヲ充今聞陳スルノ機會ヲ得ヘク果シテ我政府ノ意見ニシテ貫徹スルコトヲ得ハ條約改正ノ事亦稍々容易ナルヘクト存候乍去之ヲ試ミタル上ニテ萬一歐米條約國政府ニ於テモ其ノ府ノ採テ以テ意見トスル所ヲ容レス帝國政府ニ於テモ其ノ議ヲ繼續スルコトヲ欲セサルトキハ別紙秘密條約ニヨリ墨西哥國人ノ享有セル特典ヲ取消シ以テ議論ノ根據ヲ絶ツオ得ヘキ儀ニ有之候(下略)

註 1 條約第八條參照 2 及3 條約第四條及機密特別條款參照
尙右閣議法定事項ハ直ニ陸奧公使ニ電訓並ニ訓狀ヲ發シ十四日安結ヲ見タリ

ヲ得且ツ最惠國ノ臣民若クハ人民ノ滯在住居シ得ヘキ各所各港ニ滯在住居スルコトヲ得又右臣民若クハ人民ハ其住居地ニ在家屋倉庫ヲ借受ケ總テ正業ニ屬スル天產物、製造品及ヒ其他商品ノ卸賣若クハ小賣營業ニ從事スルコトヲ得

第四條

日本皇帝陛下ハ本條約ニ依リ日本國ニ渡來スル墨西哥國人民ニ附與シタル特權ノ外茲ニ此條約ニ記載セル數箇ノ條款ニ對シ別ニ同國人民ニ許與スルニ皇帝陛下ノ領地内及ヒ其所屬地各所ニ入來シ又ハ滯在住居シ同所ニ於テ家屋倉庫ヲ借受ケ又ハ總テ正業ニ屬スル天產物、製造品及ヒ各種商品ノ卸賣若クハ小賣營業及ヒ其他一切合法ノ職業ニ從事スルノ特權ヲ以テス

第五條

兩締約國ハ其一方ノ領地ニ於テ通商航海旅行及ヒ住居ノ事ニ關シ他ノ外國ノ臣民若クハ人民ニ現ニ許與シ若クハ將來許與スヘキ一切ノ殊遇、特權及ヒ免除ハ他ノ一方ノ臣民若クハ人民ニモ之ヲ許與シ而シテ右殊遇特權及ヒ免除ハ報酬ヲ要セシテ他ノ外國ノ臣民若クハ人民ニ許與シタルモノニ係レハ又均シク報酬ヲ要セシテ之ヲ許與シ若シ別段ノ

第六條

約束ニ依テ許與シタルモノニ係レハ則チ同一ノ約束又ハ之ト同一ノ價値ヲ有スル報酬ニ對シテ之ヲ許與スヘキコトヲ約ス
頓稅、燈稅、港稅、水先案内費、難破救助費及ヒ其他ノ諸稅ニ就キテハ日本各港ニ於ケル墨國哥合衆國ノ船舶又墨西哥合衆國各港ニ於ケル日本西ノ船舶ニ對シ最惠國ノ船舶ニ現ニ賦課シ又ハ將來賦課スヘキ諸稅ニ異ナルカ又ハ之ヨリ多額ノ稅金ヲ賦課スルコトナカルヘシ

第七條

墨西哥合衆國ノ天產物及ヒ製造品ヲ日本國ニ輸入シ又ハ日本國ノ天產物及ヒ製造品ヲ墨西哥合衆國ニ輸入スルトキハ他ノ外國ノ產出若クハ製造ニ係ル同種類ノ物品ニ對シ現ニ賦課シ若クハ將來賦課スヘキ輸入稅ニ異ナルカ又ハ之ヨリ多額ノ稅ヲ賦課スルコトナカルヘシ又兩締約國ノ一方ノ領地若クハ所屬地ヨリ他ノ一方ノ領地若クハ所屬地へ向ケ輸出スル物品ニ就テハ他ノ外國へ向ケ輸出スル同種類ノ物品ニ對シ現ニ賦課シ若クハ將來賦課スヘキ諸稅金ニ異ナルカ又ハ之ヨリ多額ノ稅ヲ賦課スルコトナカルヘシ又兩締約國ノ

ノ一方ノ領地ノ天產物若クハ製造品ヲ他ノ一方ノ領地若クハ所屬地ニ輸入スルヲ禁スルハ他ノ外國ノ產出若クハ製造ニ係ル同種類ノ物品ノ輸出ヲ禁スル場合ニ限ルヘシ又兩締約國ノ一方ノ領地ヨリ他ノ一方ノ領地若クハ所屬地へ向ケ物品ヲ輸出スルヲ禁スルハ他ノ外國ノ領地へ向ケ同種類ノ物品ヲ禁スル場合ニ限ルヘシ

第八條

日本國又ハ其領海ニ來ル墨西哥合衆國ノ人民及ヒ船舶八日日本又ハ其領海ニ在ル間ハ墨西哥合衆國及ヒ其領海ニ到ル日本皇帝陛下ノ臣民及ヒ船舶カ墨西哥國ノ法律及ヒ其裁判管轄ニ服從スルト同様日本國ノ法律ヲ遵奉シ且ツ其裁判管轄ニ服從スヘキモノトス

第九條

本條約ハ其批准書交換後直ニ實行スヘシ而シテ兩締約國ノ一方ヨリ本條約ヲ廳棄スルノ意ヲ他ノ一方ヘ通知シタル日ヨリ六箇月間其效力ヲ有シ此期限ヲ経過シタル上ハ直ニ其效力ヲ失フヘシ

第十條

本條約ハ日本文、西班牙文トノ間ニ文意相異ナルトキハ英文ニ從

シ日本文ト西班牙文トノ間ニ文意相異ナルトキハ英文ニ從

リ之ヲ斷定スヘキコトヲ雙方政府約束ス

第十一條

本條約ハ可成丈ヶ早キ時期ニ兩締約國ニ於テ互ニ批准シ亞米利加合衆國華盛頓府ニ於テ其批准書ヲ交換スヘシ右證據トシテ雙方ノ全權委員本條約六通ニ記名調印スルモノ也

日本明治二十一年十一月三十日

西曆一千八百八十八年十一月三十日

華盛頓府ニ於テ

陸 奥 宗 光 印

機密特別條款

日本皇帝陛下ノ政府ハ向後何時モ日本皇帝陛下ノ政府ト墨西哥合衆國政府トノ間ニ本日締結シタル本條約第四條ニ依テ墨西哥國人民ニ許與シタル特權ヲ撤去スルヲ便宜ト認ムル場合ニ於テ日本皇帝陛下ハ前以テ通報セス何時モ特ニ第四條ヲ廢止スルノ權利アルコトヲ約定ス日本皇帝陛下ノ政

船損ヤシカ爲メ、生シタルノ充份ナル賠償アル一項、
失リシテ且ツ其損失ヘ満足、認定シ得キ實施、損失タル

於トベニ、對シテ相當ヘ賠償ヲ支給ベキコトヲ同意
ス

此機密特別條款、本日記名ヤル本條約第九條中「全文ヲ其
儘記入シタルト同様ノ資格ヲ有シ且ツ本條約ト同時」批准
ス

右證據トシテキ方全權委員本條約ト同様ハ手續ヲ以テ此機
密特別款六通、記名調印スル由ハナリ

日本明治廿一年十一月三十一日

西曆一千八百八十八年十一月三十一日

華盛頓府、於

亞美利加

M. Romero

■ 本條約ハ明治廿一年十一月三十一日御批准國年十二月二日譯
盛頓、於、批准書交換同年十二月二日各布サム

和譯文

Treaty of Amity and Commerce.

Signed at Washington, in Japanese, Spanish and

ARTICLE I.

There shall be firm and perpetual peace and amity
between the Empire of Japan and the United Mexican
States, and their respective subjects and citizens.

ARTICLE II.

His Majesty the Emperor of Japan may, if He see
fit, accredit a Diplomatic Agent to the Government
of the United Mexican States; and in like manner,
the Government of the United Mexican States may,
if it thinks proper, accredit a Diplomatic Agent to
the Court of Tokio; and each of the Contracting
Parties shall have the right to appoint Consul-
General, Consuls, Vice-Consuls and Consular Agents,
for the convenience of trade, to reside in all the
ports and places within the territories of the other
Contracting Party, where similar Consular Officers of
the most favored nation are permitted to reside;
but before any Consul-General, Consul, Vice-Consul
or Consular Agent shall act as such, he shall, in the
usual form, be approved and admitted by the Govern-

ment to which he is sent.

The Diplomatic and Consular Officers of each of
the two Contracting Parties shall, subject to the
stipulations of this Treaty, enjoy in the territories of
the other whatever rights, privileges, exemptions,
and immunities, which are, or shall be, granted there
to officers of corresponding rank of the most favored
nation.

ARTICLE III.

There shall be between the Territories and Posses-
sions of the two Contracting Parties reciprocal
freedom of commerce and navigation. The subjects
and citizens, respectively, of each of the Contracting
Parties shall have the right to come freely and
securely with their ships and cargoes to all places
and ports in the Territories and Possessions of the
other where subjects or citizens of the most favored
nation are permitted so to come; they may remain
and reside at all places or ports where subjects or
citizens of the most favored nation are permitted to
remain and reside, and they may there hire and oc-

English, November 30, 1888 (21st year of Meiji)

His Majesty the Emperor of Japan and the President of the United Mexican States, being equally animated by a desire to establish upon a firm and lasting foundation relations of friendship and commerce between their respective States and subjects and citizens, have resolved to conclude a Treaty of Amity and Commerce, and have for that purpose named their respective Plenipotentiaries, that is to say:—

His Majesty the Emperor of Japan, Jushii Munito Mutsu, of the Order of the Rising Sun and of the Third Class of Merit, and His Envoy Extraordinary and Minister Plenipotentiary near the Government of the United States of America; and the President of the United Mexican States, Matias Romero, Envoy Extraordinary and Minister Plenipotentiary of the United Mexican States in Washington; who, having communicated to each other their respective Full Powers and found them in good and due form, have agreed upon the following Articles:—

cup houses and warehouses, and may there trade by wholesale or retail in all kinds of products, manufactures and merchandise of lawful commerce.

ARTICLE IV.

His Majesty the Emperor of Japan, in consideration of the several stipulations contained in this Treaty, hereby grants to Mexican citizens resorting to Japan, apart from and in addition to the privileges extended to such citizens by the last preceding Article of this Treaty, the privilege of coming, remaining and residing in all parts of His Territories and Possessions; of there hiring and occupying houses and warehouses; of there trading by wholesale or retail in all kinds of products, manufactures and merchandise of lawful commerce; and finally, of there engaging in and pursuing all other lawful occupations.

ARTICLE V.

The two Contracting Parties hereby agree that any favor, privilege or immunity whatever in matters relating to commerce, navigation, travel through, or

residence in their Territories or Possessions which either Contracting Party has actually granted or may hereafter grant to the subjects or citizens of any other State, shall be extended to the subjects or citizens of the other Contracting Party; gratuitously, if the concession in favor of that other State shall have been gratuitous; and on the same or equivalent conditions, if the concession shall have been conditional.

ARTICLE VI.

No other or higher duties or charges on account of tonnage, light or harbor dues, pilotage, quarantine, salvage in case of damage, or any other local charges, shall be imposed in any of the ports of Japan on vessels of the United Mexican States, or in any of the ports of the United Mexican States on vessels of Japan, than are or may hereafter be payable in like cases in the same ports on vessels of the most favored nation.

ARTICLE VII.

Nor shall any prohibition be imposed on the exportation of any article from the Territories of either of the Contracting Parties to the Territories of Possessions of the other, which shall not equally extend to the exportation of the like article to the territories of all other nations.

ARTICLE VIII.

Citizens of the United Mexican States, as well as Mexican vessels resorting to Japan, or to the territorial waters thereof, shall, so long as they there remain, be subject to the laws of Japan and to the jurisdiction of His Imperial Majesty's Courts; and, in the same manner, His Imperial Majesty's subjects and Japanese vessels resorting to Mexico and to the territorial waters of Mexico shall be subjects to the laws and jurisdiction of Mexico.

ARTICLE IX.

The present Treaty shall go into operation immediately after the exchange of ratifications, and shall continue in force until the expiration of six months after either of the Contracting Parties

shall have given notice to the other of its intention to terminate the same, and no longer.

ARTICLE X.

The present Treaty shall be signed in duplicate in each of the Japanese, Spanish and English languages, and in case there should be found any discrepancy between the Japanese and Spanish texts, it will be decided in conformity with the English text, which is binding upon both Governments.

ARTICLE XI.

The present Treaty shall be ratified by the two Contracting Parties, and the ratifications shall be exchanged at Washington as soon as possible.

In witness whereof the respective Plenipotentiaries have signed this Treaty, and hereunto affixed their respective seals.

Done in sextuplicate at Washington this thirtieth day of the eleventh month of the twenty-first year of Meiji, corresponding to the 30th day of November of the year one thousand eight hundred and eighty-eight.

L. S. (Signed) MUNEMITSU MUTSU.

This secret and Separate Article shall be held to qualify Article IX of the Treaty this day signed in the same manner, unto the same extent, as if it were inserted word for word in said Article and it shall be ratified at the same time as the Treaty.

In witness whereof the respective Plenipotentiaries have signed this Article and hereunto affixed their respective seals.

Done in sextuplicate, in the same manner as in the Treaty before mentioned, at Washington this 30th day of the Eleventh Month of the Twenty-first Year of Meiji, corresponding to the 30th day of November, of the year Eighteen hundred and Eighty-eight.

signe Munemitsu Mutsu (L.S.)
" M. Romero

記録 I

御 批 準 紋

天佑ヲ保有シ萬世一系ハ帝祚ヲ繼ガタル日本國皇帝御名此
書ヲ見ル有衆宣告ベ
帝國ト墨西哥合衆國トノ交際ヲ永久親睦ナラシメハムト

欲シ明治二十二年十一月三十日北米合衆合華盛頓府ニ於テ

八九六

L. S. (Signed) M. ROMEO.

Secret and Separate Article

Forming part of the Treaty signed between the Empire of Japan and the United Mexican States on the 30th day of November, 1888.

In the event the Government of His Majesty the Emperor of Japan should, at any time hereafter, deem it expedient to withdraw the privileges granted to Mexican citizens under Article IV of the Treaty this day excluded between the Governments of His Majesty the Emperor of Japan and the United Mexican States, it is agreed that His Majesty the Emperor of Japan shall have the right at any time, without any previous notice, to separately denounce the aforesaid Article IV, upon the understanding that in case, such right is exercised, the Government of His Majesty the Emperor of Japan shall give reasonable compensation for any actual loss that can be satisfactorily established, and upon sufficient proof that such loss in occasioned by the impairment under and by virtue of said Article IV.

兩國全權參照ノ記名調印シタル修好通商條約及其附約機密特別條款ノ各條目ヲ朕親シク閱覽點檢シタルニ善ク朕方意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス
神武天皇即位紀元一千五百五十九年
明治二十二年一月 日東京帝國ニ於テ
親カク名ハ跡ハ國ハ金ヤハ

御祝 國慶

外務大臣 伯 大 謹 重 信

記録 II

國籍證明書 1號ペル明治二十二年七月一日

外務省令第三號及外務省告示第一號

外務省令第三號

明治二十二年十一月三十日帝國ト墨西哥合衆國トノ間ニ締結シタル修好通商條約依リ墨西哥合衆國人民カ帝國內ニ於テ享有スヘキ權利ヲ實行スル際シ其國籍ヲ證明スルニ便ナランカ爲メ茲ノ國籍證明書規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治二十二年七月一日十九日

外務大臣 伯 大 謹 重 信

國籍證明書規則

第一條 墨西哥合衆國人民ハ本規則ノ手續ニ依リ地方廳ヲ經テ國籍證明書ノ交付ヲ外務省ニ出願スルコトヲ得

第二條 國籍證明書ヲ得シコトヲ欲スル者ハ自ラ地方廳ニ出頭シ其ノ國籍ノ證據トナルヘキ書類ヲ添ヘ國籍、氏名、年齢ヲ記シタル願書ヲ地方長官ニ差出スヘシ但本國領事ノ駐在スル地ニ在リテハ其ノ願書ニ領事ノ裏書アルヲ要ス

第三條 出願人若國籍ノ證據トナルヘキ書類ヲ所持セサル時ハ其ノ願書ニ記載シタル國籍ニ屬スルコトヲ書面ヲ以テ確言スヘシ

第四條 地方長官國籍證明書交付ノ願書ヲ受領シタル時ハ願書記載ノ事實ニ就キ取調ヲ遂ケ意見ヲ具シテ其ノ願書ヲ外務省ニ送致スヘシ

第五條 國籍證明書ハ外務省ヨリ地方廳ヲ經テ出願人ニ交付ス但之ニ對シテ手數料ヲ要セス

外務省告示第一號

明治二十二年七月外務省令第三號ニ依リ墨西哥合衆國人民

國籍證明書		明治二十一年十一月三十日 帝國ト墨西哥合衆國トノ間 ニ締結シタル修好通商條約 ニ依リ墨西哥合衆國人ハ帝 國內ニ於テ帝國臣民同様帝 國ノ法律規則ヲ遵奉シテ自 由ニ旅行シ各地ニ滞在住居 シ正當ノ營業ニ從事シ家屋 倉庫ヲ借受クルコトヲ得ル モノナリ	明治年月日	外務省印	面
一 氏名 一 國籍 一 年齡	右「何之誰」墨西哥合衆 國人ニ相違ナキコトヲ 證明ス				

別録三 參考再録七〇文書

明治二十一年十二月十八日 大隈外務大臣書翰

最惠國條款ノ解釋ニ關スル件

(抄出) 或ル一國カ他國ニ先タチ我國ト新條約ヲ結ヒ其國ノ人ヲシテ自由ニ内地ニ入り及ヒ土地ヲ購買スル等ノ權利ヲ得シメハ自餘ノ國々ハ必ス現行條約中ノ最惠國條款ヲ利器トシテ其國ニモ同様ノ權利ヲ得セシメンコトヲ主張ス

ヘントモ同一ノ條約ヲ結フモノニハ之ヲ許ルシ否ラサルモノハ斷然其請求ヲ拒ムヘキ積ニ有之候……右最惠國條款ノ解釋ハ必ス一大問題ト可相成是迄ハ云ハス語ラシテ右條款ノ解釋ハ英國等ノ所說ヲ默諾シタル麥ニ有之即チ一國ニ

新特權ヲ附與スルトキハ其權利ニ隨伴スヘキ義務アルト否トニ拘ハラス列國ハ單ニ無條件ノ權利ヲ享有スヘシト云……自儘ノ解釋ヲ我ニ於テモ暗ニ餘儀無コト心得タルカ如キ

新特權ヲ附與スルトキハ其權利ニ隨伴スヘキ義務アルト否トニ拘ハラス列國ハ單ニ無條件ノ權利ヲ享有スヘシト云……自儘ノ解釋ヲ我ニ於テモ暗ニ餘儀無コト心得タルカ如

別録四 明治二十二年七月二十九日 井上 譲
ロエスレル 問答

最惠國條款ノ解釋ニ關スルロエスレル氏意見

問

最惠國條款ハ其ノ正文ニ從ヒ或ハ無要件タリ、或ハ要件アリテ他ノ最惠國ニ與フル所ノ利益ニ均シキ讓與ヲ爲ス者ナリ。

若シ此條款ニシテ或ル要件ヲ附セサルトキハ此ノ條款ハ全ク要件ヲ拒絶スルノ意義ナリシテ解釋スヘキカ。例之ハ甲國ト乙國トノ間ニ要件ヲ附セサル最惠國條款ヲ約束シタランニ、其ノ後兩國ニ向テ報酬アル讓與ヲナシタルトキニ、乙國ハ丙國ノ甲國ニ向テ負フ所ノ報酬ヲ負ハスシテ單ニ其ノ利益ヲノミヲ均同享受スルコトヲ得ヘキカ?

又ハ法理上及^{イタチ}諸語上ノ元則ニ依リ(其ノ甲乙兩國ノ間ニ要件ヲ附セサル最惠國條款ノ存スルニ均ラス)兩國ト均同ノ利益ヲ受クル者ハ又兩國ト均同ノ報酬ヲ負ハサルヘカラサ左考ヘ電信ヲ以右箇條追加ノ儀申進シタル處幸ニ拙者ノ望

ニ交付スヘキ國籍證明書ノ雑形左ノ如シ

明治二十二年七月二十九日

外務大臣伯 大隈重信

ルカ。

若又甲乙兩國ノ條款ニシテ消極ノ正文ヲ以テ何等ノ要件ヲ附セ、ストハ事ヲ明言シタルトキハ、此ノ正文ハ法理上及請誼ニ拘ラス甲國ハ兩國ニ報酬アル讓與ヲナシタルモ、乙國ニハ報酬ナク之ヲ讓與スヘキノ義務ヲ確定シタルモノナルヤ？

答

國際公法ノ著書ニ於テ最惠國條款ニ論及スルモノ甚タ僅少ナリ。而シテ其實際上ノ效用亦未タ確定セス。

元來法理上ヨリ論スルトキハ最惠國條款ヨリ生スル所ノ利益ハ最初之ヲ或ル國ニ與ヘタルト同一ノ方法ニ於テ、均ニ他ノ諸國ヨリ請取スルヲ得ヘシ。蓋甲國ハ之カ爲メ報酬ヲ出スヘキモ、乙國ハ無報酬ニテ之ヲ享クルトセハ、乙國ハ甲國ニ比シテ多クノ利益ヲ享クルコト明カナリ。何トナレハ甲國ハ其享クル所ノ利益ヨリシテ報酬ノ價值ヲ控除スヘケレハナリ。然ラハ則外國ニ對シテ均一ノ取扱ヲ爲スニ非シテ偏頗ノ取扱ヲ爲スモノナリト謂ハサルヲ得ス。

各國ノ條款ヲ通觀スルニ、最初或國ニ條件ヲ附セスシテ利益ヲ與ヘタルトキハ、他ノ諸國亦無條件ニテ之ヲ享クル。

惠國條款ハ條件ヲ附シ且別段ノ條約ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ適用スルヲ得ス。即相當ノ報酬ヲ要スルモノナリト結論スルモ敢テ不可ナカルヘシ（同條約第二十條ニ於テ之ト類似ノ規定アリ）

デ、クツシー氏曰ク、甲國乙國ヨリ最惠權ヲ條受シタル場合ニ於テ、其後若シ兩國ニシテ土地ヲ讓與スルカ、又ハ其他ノ利益ヲ與フル如キ特別ノ負擔ニ代ヘ、乙國ヨリ利益ヲ享ケタルモ、甲國ハ未タ以テ乙國ニ對シ兩國同一ノ利益ヲ請求スルヲ得ス、蓋此論旨ハ前陳ノ主義ニ異ナル所ナシ（同氏ハール、エ、カウース、チエレーブル、ドヨ、ドロワ、マリテーム第一卷第二十四條）

蓋シ最惠國條款ニ對スル此ノ如キ狹義ノ解釋ハ近來普通ノ主義ト視ルヲ得ス。殊ニ自由通商及完全ナル自由競争ノ主義一度人心ニ感染シタル今日ニ於テハ、最惠國條款ヲ享受シタル國ハ少クモ海關稅航海手數料等ノ通商事件ニ關シ何等ノ條件ヲ附セシテ其條款ヲ適用セント欲スルハ實際上誣ユヘカラサルコトナリ。亦余ヲ以テ之ヲ見ルモ、各國政府ニ於テ實行シ得ル限リ此方針ヲ取ルモノ、如シ。

固ヨリ條件ヲ附セシテ最惠權ヲ適用スヘキノ明文ヲ約

附錄 日墨締約一件 四

コトヲ得ヘク、又最初條件即報酬附シタル利益ハ、同一ノ

條件即報酬ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ享クルコトヲ得ストノ明文ヲ掲クルモノ多シトス。故ニ此ノ如キ意ヲ以テ最惠國條款ノ眞意ト視ルヲ得ヘク、假令條約ニ之カ明文ヲ掲ケサル場合ニ於テモ亦然リトスルヲ得ヘ。之ヲ要スルニ若反對ノ明文ナキニ於テハ、最惠國條款ハ單ニ請求權ヲ生スルノミニテ、此權ハ其場合ニ臨ンテ始メテ之ヲ確定スヘク、而シテ最初或ル國ニ對シテ設ケタル所ノ條件即報酬ニ服從セシムヘキナリ。今茲ニ一例ヲ舉ケンニ、千八百六十九年九月二日ノ墺國ト支那トノ條約第四十三條ニ曰ク「墺國ト支那政府ヨリ外國ノ臣民ニ與ヘタル總テノ利益及將來之ニ與フル所ノ總テノ利益ヲ完全均同ニ享受スヘシ。海關稅等ノ改正ハ總テ一般ニ採用セラル、トキハ即時ニ且別ニ條約ヲ要セシテ墺國ノ商人及航海者ニモ亦之ヲ適用スト、蓋該條ノ前段ハ全般ノ最惠國條款ニシテ、後段ハ海關稅ノ如キ各種ノ事件ニ之ヲ適用スル場合ヲ定メタリ。而シテ此場合ニ限り、即時ニ且別ニ條約ヲ要セシテ最惠國條款ヲ適用スルモノナルコトヲ明言セリ。之ニ由テ觀ルトキハ各種ノ事件ニ關シ此ノ如キ明文ナキニ於テハ、全般ノ最

ルベシ。又兩國國王陛下ハ其相互ノ臣民ニ對シ物權ノ性質上自然ニ生ズル所ノ總テノ免除及利益ヲ與フルノ義務ヲ負擔スト。

其ノ他ノ條約ニ於テモ亦同一ノ例外アリ。千八百六十七年二月廿三日ノ墺國ト白耳義トノ條約第四條ニ於テ、墺國ニ關シテハ獨逸關稅聯合ニ屬スル各國及土耳古ノ臣民ニ與ヘタル利益又白耳義ニ關シテハ佛國ノ海鹽輸入ヲ以テ其例外トセリ。千八百六十五年十二月十六日ノ墺國ト英國トノ條約第二條、千八百六十七年四月廿三日ノ墺國ト伊太利トノ條約第七條ニ之ト類似ノ規定アリ。

「ハワイ」政府ハ條約ヲ以テ北米合衆國ニ或ル利益ヲ與ヘタルコトアリ。予ハ砂糖ノ輸入稅及輸出稅ニ關シタル利益ナリト記憶ス。當時英國政府ハ最惠國條款ニ基キテ均シク其利益ヲ請求シタリ。然レトモ米國政府ハ英國ノ請求ヲ拒絶シ、予ノ知ル所ニ依レハ此ノ如キ利益ハ米國ト「ハワイ」國トノ特別ナル關係ニ由來スルモノナルカ故ニ、他國ニ之ヲ適用スルヲ得スト謂フヲ理由ト爲シ、遂ニ其目的ヲ達セシヌサリシ。予ハ此事件ニ關スル材料ヲ有セス。故ニ詳細ニ之ヲ陳辯スルヲ得サルハ實ニ遺憾ニ堪ヘサルナリ。

文千八百八十年三月卅一日ノ獨逸ト支那トノ新條約第一條ニ於テハ眞純ノ條件即報酬ハ各別ノ利益ニ關スル單一ノ施行規定トシテ區別シ、而シテ此施行規定ハ獨逸國ニシテ既ニ無條件ノ最惠權ヲ得ヘキ場合ニ於テモ亦之ニ服從セサルヘカラサルナリ。蓋此規定ノ意義ハ明瞭ヲ缺ク所アルニ拘ラス、之ニ依リ支那政府ハ新ニ利益ヲ與フルニ方リ、特ニ其施行規定ヲ約定スルトキハ彼ノ條約ニ依テ獨逸國ハ之ヲ遵行セサルヘカラス。此區別ハ日本ノ條約改正ニ際シ獨逸國ヨリ日本ニ對シテモ之ヲ提出セリ。

千八百七十九年三月廿五日ノ獨逸ト「ハワイ」トノ通商條約第三條第四條ニ於テハ明カニ海關稅ニ限リ無條件ノ最

惠權ヲ與フルコトヲ約定シ、其他ノ條件附帶ノ利益ニ關シテハ均同ノ報酬ヲ出サルヘカラサルナリ。

千八百十一年五月廿三日ノ獨逸ト墺國トノ通商條約第二條ニ規定シテ曰ク、輸入稅輸出稅及通過權ニ關シテ第三國ニ與ヘタル總テノ利益ハ報酬ヲ要セシテ同時ニ他ノ一方ニ與ヘサルヘカラス。但國境交通及獨逸關稅聯合ニ關スル利益ハ此限リニ在ラスト。

之ニ由テ是ヲ觀レハ一モ條件ヲ附セサル最惠國條款ハ固

予ノ見ル所ニ依レハ此ノ如キ例外ハ假令條約ニ之カ明記ナキ場合ニ於テモ、亦之ヲ實行スルヲ得ヘシ。何トナレハ事性質中ニ在テ存スルセノナレハナリ。元來最惠權ハ其性質ニ依テ之ヲ一般普通ノモノト爲スヲ得ヘク、而シテ專ラ兩國間ニ締結シタル條約ノ一成却ニ非サル事件ニ關スルトキニ限リ其效力ヲ及ホスコトヲ得ヘキノミ。

日本國他ノ一國ニ對シ或ル新條件ヲ附シテ一港ヲ開クノ條約ヲ締結シタルトキハ、之レ亦兩國間ノ特別ナル關係ト謂ハサルヲ得ス。蓋此ノ如キ新制度ニ由來シタル所ノ利益ハ最惠國條款ニ基キテ汎ネク其他ノ各國ヨリ之ヲ請求スルヲ得ス。何トナレハ現行條約ニ存スル最惠國條款ハ全ク他ノ制ニ即五箇ノ開港ヲ基トシタルモノナルカ故ニ、之ヲ新制度ニ基ク所ノ利益ニ及ホスヘカラサレハナリ。若夫レ此利益ヲ請求スルニ至テハ之ニ代フルニ同一ノ條件ヲ以テセサルヘカラス。何トナレハ其條件ハ即チ新制度ノ要部ヲ占メ、而シテ之ヲ分離スルヲ得サレハナリ。蓋シ開港ハ日本ノ爲メ政治上及國際上一新ノ制度ニシテ、通商又ハ航海ニ關スル各個ノ利益ト同一視スヘカラサルヤ敢テ論ヲ俟タルナリ。

ヨリ有效ノモノト觀サルヘカラストノ結論ヲ爲サルヘカラス。然レトモ此條款ハ單ニ海關稅、航海手數料ノ如キ或ハ權利ニ對シテ其效力ヲ有スルヲ常例トシ、而シテ兩國間ニ存スル特別ノ關係ニ付テハ之カ例外ヲ設ケサルヘカラサルナリ。

千八百八十九年七月二十九日

リヨースレル再拜

(伊藤公秘書類纂)

五 明治二十二年七月二十九日 萬國公使ヨリ

大隈外務大臣宛

日墨條約ニヨル最惠國條款均霑方ニ關シ照會ノ件

女皇陛下ノ政府ハ千八百五十八年（安政五年）條約第二十三條ニ基キ英國臣民ノ爲メニ新條約ニ依テ墨西哥人民ニ附與セラレタル特權其他（即チ該條約第四條ヲ以テ讓與セラレタル旅行並ニ住居ノ權利共）ニ關シ自由且均等ノ均霑ヲ要求スルノ權利ヲ有スル旨ト自認ス（下略）

井ニ同四月二十四日附同書翰二六七附屬書參照

六 明治三十三年八月三日

英國公使宛

日墨條約ニヨル最惠國條約均霑方照會ニ對シ回答ノ件

陳者去ル七月二十九日附第二十四號貴翰ヲ以テ頃日條約ヲ以テ墨西哥國人民ニ附與致候新特權竝ニ貴國人民カ右特權ヲ享有スルノ權利ニ關シ御照會ノ趣致了承候。帝國政府ハ貴國政府ト同様ニ現ニ貴我兩國政府ノ間ニ存在スル所ノ諸條約ヲ一體ニ改正スルコトニ係リ目下御協議中ノ談判ヲシテ近日満足ノ結局ヲ告ケシメ度希望ヲ有シ居候處果シテ右ノ目的ヲ達シ候上ハ墨西哥國政府カ其ノ人民ノ爲メニ受領シタル新特權ニ關係シテ安政五年締結日英條約中ノ謂ユル最惠國條款ノ趣意如何ヲ詳細ニ論辯スルノ要ハ自然ニ消滅可致ト存候然ルニ貴國政府ハ此際右關係ニ就キ其ノ要求ヲ明示スルコトヲ必要ト認メラレ候ニ付テハ本大臣ニ於テモ亦本項ニ關シ帝國政府ノ意見ヲ判然明言シテ貴

政府ニ報告スルノ要用ヲ相感シ候但シ今般貴國政府カ呈出シタル要求ニ就キ其ノ廣狹ト眞意トヲ精細ニ知ルコトヲ得タランニハ此責務ヲ盡スニ當リ一層容易ナリシナラント存候墨西哥國人民ハ目下ニ於テハ貴國臣民ノ均有セサル或ル特權ヲ條約上ノ規定ニ由リ現ニ日本ニ於テ享有致候處元來一國ノ條約ニ由リ獲得シタル特權ハ反對ノ明言アルニアラサレハ該條約中ニ記載シタル總テノ他ノ約款ノ報酬トシテ得タルモノト認定スヘキハ普通ノ公論ト確信致候ニ付帝國政府ハ安心シテ此正當ナル解釋法ニ依賴シ墨西哥國人民ニ附與シタル特權ハ價值アル報酬ニ對シテ之レヲ附與シタルモノナリトノ論旨ヲ維持シ得ヘキ筈ニ有之候然レトモ之レヲ帝國政府ニ於テハ本問題ヲ議論ノ領分以外ニ置カソコトヲ欲シタルニ因リ此等ノ特權ハ條約中ニ含有セラレタル他ノ條款ノ報酬トシテ墨西哥人民ニ附與スル旨ヲ判然明言スルノ注意ヲ加ヘ置候

右約款ヲ總テ爰ニ列記スルノ要ハ無之候處帝國政府カ最モ重キヲ置クノ約款ハ日本ニ於ケル墨西哥人民ニ對シ皇帝陛下ノ政府カ完全最上ナル行政立法竝ニ司法ノ大權ヲ有スルコトヲ承認シタルモノナルハ本大臣ノ敢テ爰ニ陳述スル所

ニ有之候

貴公使カ今般提出セラレタル要求ニシテ條件ヲ付シテ墨西哥國人民ニ附與シタル特權ヲ自由ニ且ツ均一ニ享有セントノ御要求ニ止マル儀ニ有之候ハハ帝國政府ハ墨西哥國政府ノ承認セシ條件ト同一ノ條件ヲ得ル上ハ自由ニ右享有權ヲ附與スルコトニ躊躇セサルヘキ旨ヲ本大臣ハ欣然貴公使ニ對シテ諂言スルコトヲ得候

然レトモ前文要求ニシテ若シ明文ヲ以テ是ヲ確定シ且ツ價值アル報酬ノ代リトシテ帝國政府カ墨西哥國ニ附與シタル特權ヲ條件モナク又報償モナクシテ享有セントノ儀即チ右特權ヲ不均一ニ享有セントノ儀ニ有之候ハハ乍遺憾本大臣ハ右要求ハ帝國政府ノ承認スルコト能ハサルモノナル旨

ヲ貴公使ニ奉答スルノ外無之候

帝國政府ハ墨西哥政府ト談判ヲ開始スルコトヲ諸スルニ前

チ其ノ曾テ各國ト締結シタル條約中ニ載スル所ノ最惠國條款ノ趣意如何ニ就キ深ク審議ヲ遂ケ條件ヲ付シテ第三國ニ附與シタル特權ノ享有ヲ無條件ニテ當然要求スルコトヲ得セシムルカ如キ約束ハ何國トモ締結シタルコトナキ旨ヲ研究會得シタル上ニテ初ステ此ノ條約ヲ相結ヒ候右ノ次第ハ

七 明治三十三年八月三日

佛國公使ヨリ
大限外務大臣宛

最惠國條款均霑方ニ關シ照會ノ件

過日日本政府カ條件ヲ以テ墨西哥國ノ人民ニ附與シタル日本内地ヲ旅行住居スルノ權利ハ千八百五十八年日佛條約第十九條ニヨリ佛國人民ニモ及ホサルル權利ニシテ之ヲ將來ノ爲メニ保留シ置クヲ必要ト思考致候（後略）

註 本書ニ對シ八月十七日附テ以前掲文書同案ノ回答ヲナセリ